

JASMA 会報

2016年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
国際アパレル機器&繊維産業見本市(JIAM 2016 OSAKA)について	3
第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	3
新年賀詞交歓会開催される	4

新年ご挨拶



一般社団法人日本縫製機械工業会
会長 中村 和之

明けましておめでとうございます。

新しい年 平成28年が始まりました。

世界は今、シリア、ウクライナの紛争にとどまらず、ISなどのテロのリスクの拡散に対して警戒を強めざるを得ないなど、政治的に難しい状況にあります。

経済の分野でも、米国の金融政策や中国経済の「新常态」がもたらす新興国への影響などが懸念されています。

過度の円高修正、株価の大幅な回復などを背景に、これ迄順調に回復を続けて来た我が国経済についても本年がどうなるか気になるところです。

こうした中、私達事業を取り巻く環境についても不透明感は否めません。

中国のアパレル生産減少の受け皿として、順調に発展して来たベトナム、カンボジア、ミャンマーなど東南アジア、南アジアのアパレル産業が今後どう動くのか、市場動向には十分な注視が必要です。

しかし、今年は草木が熟する年、縁起が良いとされる「申(さる)年」であります。国内においては、近年「日本発ものづくりの提言プロジェクト」など、日本国内生産への取り組みが強化されつつあります。こうした中でお客様のIT化、ロボット化などへの要求は一段と高まっています。私共は環境の変化に動ずることなく、お客様のニーズを踏まえ、怯まず力強く前進してまいりたいと思います。

当工業会は、昨年、政府の後押しを得て、東アフリカ市場への取り組みを開始しましたが、本年は4年ぶりのJIAM展を開催する節目の年です。以下主だった取り組みについてふれたいと思います。

一つはそのJIAM 2016 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

本年(平成28年)4月6日~9日に、「革新的ソリューションと高度加工技術」をテーマとして、インテックス大阪において開催いたします。当工業会としては本見本市を情報技術と革新技術を駆使した新製品や最新技術を世界に向けて情報発信する場とする方針の下、現在追い込みにも全力を傾注しております。

本JIAM展の出展勧誘・来場誘致に関連して、昨年は出展概要説明会を5月に東京、12月に大阪で開催したほか、5月にドイツ(フランクフル

ト)、9月に大阪、中国(上海)において夫々で記者発表会を行いました。

1月7日時点で、出展が決まっている企業は、国内132社/859小間、海外62社/205.4小間、合計194社/1064.4小間となっており、前回JIAM2012に比べて、企業数では2%、小間数では25%の伸びとなっています。

当工業会が主催するテーマゾーンでは、セミナー講演と連動して新しい時代のビジネスモデルにつながる展示を準備しますが、国内外から多くの来場者をお迎えすることで、必ずやビジネスチャンスの拡大につながる場となるものと確信します。また、イベントステージでは、ファッションショーやトークショーなども準備し、コンシューマの方々にも縫製機械産業への関心を深めていただければと考えております。ご関係の皆様にはなお一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

二つ目は、家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進に関することです。この活動の中心となる本年の第36回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」には、特に、小学生、中学生の募集に力を入れるとともに、募集要項をポスターとして利用可能なサイズへと変更するなど様々な工夫も行った結果、応募学校数、作品数ともに、前年を上回ることが出来ました。応募作品は、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品です。皆様のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月5日(土)に開催します。私共としては、今後も本コンクールが、我が国の「モノづくり」文化のすそ野拡大、並びに我が国の将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に連なることを念願しております。

また、平成26年1月に開始した、「生産性向上設備投資促進税制」に係わる「証明書」発行件数は、平成27年12月末時点の累計が会員で316件、非会員で196件の合計512件に達しました。残り1年余り(平成29年3月末)となりますが、今後につきましても多くの会員企業や縫製機器メーカーのお役に立つべく、ご相談に応じてまいります。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの一段の充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいり所存です。

本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

経済産業省製造産業局
産業機械課長 佐脇 紀代志



平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権が発足してから3年が経過しました。この間、デフレ脱却と経済再生を最重要課題とし機動的に積み重ねてきた経済政策の結果、雇用・企業収益は改善

し、それが消費・投資に結びつくという経済の「好循環」が生まれつつあります。

また、国際的な事業環境の面でも、行きすぎた円高の是正に続き、TPP協定の大筋合意がなされ、大きな弾みとなることが期待されます。TPP協定に参加する11か国に向けた工業製品輸出総額（約19兆円）の99.9%について関税が撤廃されるほか、ルール整備等の面で改善される項目も多々あり、国内で質の高いものづくりを行う我が国企業の海外への一層の飛躍に向け大きく貢献することが期待されます。

さらに、税制においては、昨年度に着手した成長志向の改革をさらに大胆に推進し、法人税率を29.97%にまで引き下げ、併せて、地域の中小企業による設備投資を支えるべく、史上初の固定資産税での設備投資減税も決定されました。

雇用・企業業績の着実な回復など、事業環境が改善しつつある今こそ、我が国製造業においては、設備、人材、イノベーションを含め、「未来への投資」をしっかりと行うことが重要です。経済産業省としても、昨秋、総理が表明された「希望を生み出す強い経済」の実現、とりわけ、我が国産業の稼ぎ頭である製造業の競争力強化に向け、これまで以上に支援してまいります。

企業の皆様には、政府の各種施策も活用しつつ、設備・技術・人材に対する未来に向けた投資に挑戦いただくことを期待します。また、活力ある企業のエネルギーを駆動力として、裾野広く日本経済全体の活性化へと着実に繋げていくことができるよう、賃上げや、取引先企業に対する仕入れ価格の上昇などを含め、社会と向き合うスマートな経営の実践に努めていただくことを改めてお願いします。

我が国は、少子高齢化の進展と、これに伴う人手不足に直面しており、特にものづくりの現場では生産性向上が強く求められております。こうした課題の解決策として、デ

ジタルとリアルを融合させた新たな技術革新が大いに期待されており、とりわけ、その中核として、デジタル技術、メカトロ技術、人工知能等の総合力を詰め込んだロボットが注目されます。昨年は、安倍総理の下に設置した「ロボット革命実現会議」で「ロボット新戦略」を取りまとめ、2月には、日本経済再生本部において、これを政府方針として決定しました。また、5月にはこのロボット新戦略の推進母体として「ロボット革命イニシアティブ協議会」が設立されました。産業分野のみならず、農林水産、食品、医療・福祉、建設、社会インフラなどの様々な分野から産学官の意欲あるメンバーが参画し、地に足のついた多様な活動が展開されています。政府としては、この協議会と協働し、2020年までの5年間で「ロボット革命集中実行期間」と位置づけ、ロボットの市場規模を2.4兆円に拡大することを目標に、我が国を世界のロボットイノベーション拠点とするロボット創出力の抜本強化、多様な分野でのロボットの利活用の促進、そして、ロボットを自律的に活用することを前提としたルールや国際標準の獲得・展開の3つを政策の柱として推進してまいります。

また、ドイツのインダストリー4.0や米国のインダストリアル・インターネットなどに代表されるIoT等を活用した新たなものづくりへの動きが起きています。こうした動きを我が国でもチャンスととらえ、日本のものづくり力の飛躍につなげるべく、IoT等の新しい技術を活用し、生産性を高め、新たな収益源を創出する意欲的な取組を支援します。生産現場や経営の状態の見える化により、カイゼンが容易になるだけでなく、データを起点とした新たな製品やサービスの創出により、稼ぐ力の向上に貢献します。

産業機械課は、これからも皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思っておりますので、良いアイデアやお困り事があつたら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

国際アパレル機器&繊維産業見本市 (JIAM 2016 OSAKA) について

— 会期まで3ヶ月を切りました —

当工業会が主催する国際アパレル機器&繊維産業見本市 (JIAM 2016 OSAKA) は、前回のJIAM2012を上回る出展社数、出展小間数を数え、現時点で200社以上が出展を予定し、出展小間数も前回比で25%以上増加となっています。

海外からは13ヶ国・地域からの企業・団体の参加が決定しており、ビジネスの場として内外から高い期待と関心が寄せられています。皆様のご来場をお待ち申し上げます。詳細は「<http://jiam-show.com/>」をご覧ください。



■テーマ：—革新的ソリューションと高度加工技術—

Innovative Solutions & Advanced Processing Technology

■会 期：2016年4月6日(水)～9日(土) <4日間> 10:00～17:00(但し、最終日は16:00まで)

■会 場：インテックス大阪 2・3・4・5号館

■主催者特別企画のセミナーやテーマゾーン、様々な企画・イベントが満載! (一例を紹介します)

<セミナー等> **5号館**

- ロボットとIoTを鍵とした製造業の成長戦略(仮)
- 東アフリカ(エチオピアを中心とした)縫製業界の最新動向
- 現代の名工”が伝授する新しい服作り
- “日本発ものづくり提言プロジェクト”世界が求めるメイド・イン・ジャパンのこれから
- Made by JAPAN 広がるアジア縫製 ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー、バングラデシュ どこが生産最適地か、わが社の戦略
- 機能性・意匠性・経済性を同時達成する身体障害向け衣服の共創的作製 パラリンピックを視野に 他

<テーマゾーン> **5号館**

- 先端繊維技術「太陽光発電テキスタイル」「RFIDファイバー」
- 繊維シルク 最前線
- J∞QUALITY 最新情報
- 未来のファッションプロモーション4.0 等

<ホームソーイングゾーン> **2号館**

- ホビー・ソーイング体験・ワークショップ
- 第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール優秀作品展示 他

<イベントステージ> **2号館**

- ファッションショーや有名キルト作家のスペシャルトークショー等を行います。

※問い合わせ等は下記までご連絡下さい。

一般社団法人日本縫製機械工業会 TEL: 03-6435-8190 FAX: 03-6435-8192

Eメール: info@jasma.or.jp URL: <http://jiam-show.com/>

第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は592校、応募点数は4,283点にのびりました。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、平成28年3月5日(土)、13時30分より日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)で執り行います。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 25点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 37点
- 努力賞 185点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点
- リクチュール賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校

新年賀詞交歓会開催される

当工業会の平成28年新年賀詞交歓会が、1月14日(木)午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。出席者は、経済産業省をはじめ各関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め昨年を上回る120名となり盛大に執り行われました。開会にあたり、当工業会の中村会長から次の挨拶がありました。

本年4月6日～9日にインテックス大阪においてJIAM2016を開催するが、現在最後の準備に全力を傾注している。テーマゾーンではセミナー講演や新しい時代のビジネスモデルにつながる展示をし、イベントステージではファッションショーやトークショーなども準備している。「第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、募集方法等を工夫するなどして応募学校数、作品数と

もに前年を上回ることができ、来る3月5日(土)に上位入選作品の表彰式を予定している。今後とも会員企業間のコミュニケーションの一段の充実を図り、関係諸機関とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいりたい。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 佐脇課長殿から、今年は縫製機械業界にとって一大イベントのJIAM2016があり、初日にセミナーの講師を務める機会をいただき楽しみにしている。貴業界はホームソーイング小・中・高校生作品コンクールや様々な事業を実施させながら工業会の基盤を充実させており、ますます飛躍していくと確信しており、行政としても支援していきたいとの挨拶がありました。



中村 和之 会長



佐脇 紀代志 産業機械課長



近藤 章吾 副会長



眞壁 八郎 副会長

その後、当工業会の近藤副会長(JIAM2016実行委員長)から、JIAM2016のテーマは日本発のイノベーションの発信であり、縫製業が抱える様々な課題に応えるのは今回のJIAM展である。日本の縫製機械業界の底力、実力を紹介し、JIAMのブランドを高め、日本の縫製機械産業にとっても良い結果を残すと確信している旨の挨拶後、乾杯発声が行われ和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。最後に眞壁副会長から、JIAM2016にホームソーイングゾーンを設け作品作り、ものづくりの楽しさを提案することとしており、更に第36回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは今年も多く力作が寄せられ感謝している旨の挨拶後、中締めが行われ盛況のうちに終了しました。

編集後記

リオ五輪男子サッカー(U23)が予選を勝ち抜き、アジアNO1になった。この世代は、谷間世代と言われ、予選を勝ち抜く事ができず、五輪連続出場は不可能と予測していた人が多かった。その予測に反して、準決勝で予選通過を決めた。決勝戦は韓国戦で、後半早々に2点目を決められ、敗戦を確信した。その確信に反して、後半20分過ぎから3点を入れて逆転勝ちとなった。

「どのような状況でも最後の最後まで決して諦めない」という事を若者から教えられた出来事であった。(SS)

JASMA 会報

Vol.12 No.4 2016年2月3日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <http://jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。